

# With/After コロナにおけるインパクト投資／ESG投資

～高まる重要性と期待されるパフォーマンス向上～

2020年6月

ケイスリー株式会社

contact@k-three.org

本資料は、With・Afterコロナにおける  
インパクト投資・ESG投資の意義や展望に関して、一つの見方を示したものです。

新型コロナ感染拡大は、現在の地球の持続可能性に警鐘を鳴らされた、  
一つの象徴的な事象と捉えることができます。  
この危機に際し、社会の様々な課題が顕在化し、深刻化し、  
SDGsが掲げた持続可能な世界からは、一歩遠ざかったかもしれません。

この危機を乗り越えて、再び元の世界に戻るのか、  
これまでより持続的で弾力的な世界にシフトするのか、  
その未来のあり方は、現在のリソースを、何に、どのように投じるのか、  
その選択に依るところが大きいのではないかと考えます。

自分たちの世代と、次に続く世代のために、  
経済・社会・環境が調和した持続可能な世界をつくるために、  
インパクト投資／ESG投資のあり方や可能性が議論されるきっかけになれば幸いです。

# 拡大する投資機会

- 新型コロナウイルス感染拡大により、社会課題が深刻化・広域化し、インパクト投資／ESG投資の機会は拡大すると予想される。

## Before コロナにおける試算

### 資金需要

SDGs達成のために、世界で年間5~7兆ドルの資金が必要（開発途上国では、3.3~4.5兆ドルの資金が必要。）

### 市場機会

SDGsが達成されると、労働生産性の向上や環境負荷低減等を通じた外部経済効果を考慮し、2030年までに年間12兆ドルの新たな市場機会が生まれうる

## With/After コロナにおける見通し

新型コロナウイルス感染拡大により、社会課題が深刻化

＜特に拡大が予想される分野＞



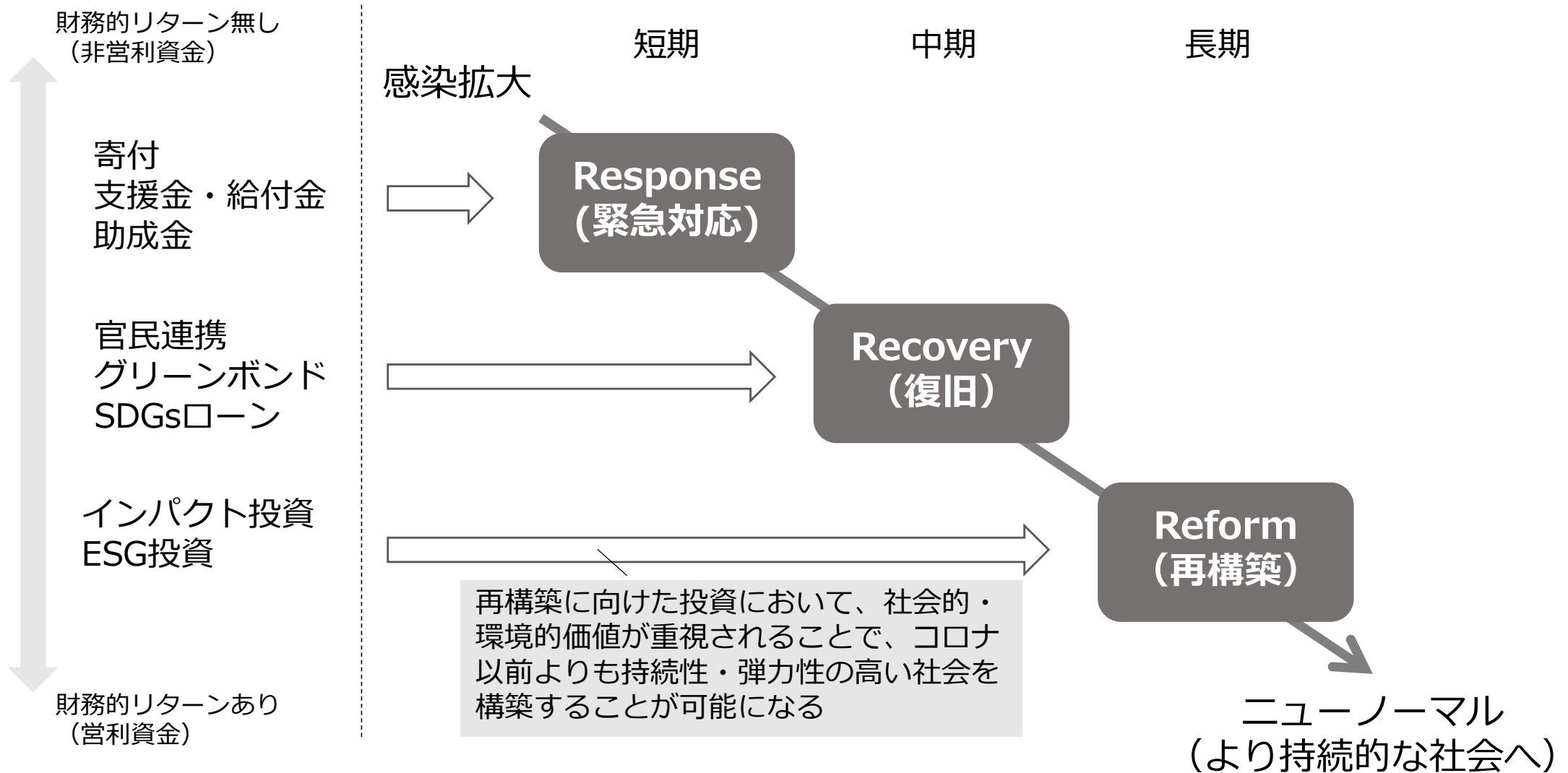
インパクト投資／ESG投資の投資機会はさらに拡大

# 高まる重要性

- ニューノーマルを構築する過程において、インパクト投資／ESG投資を促進することにより、持続的・弾力的な社会を構築することが可能になる。

## 資金の性質・例

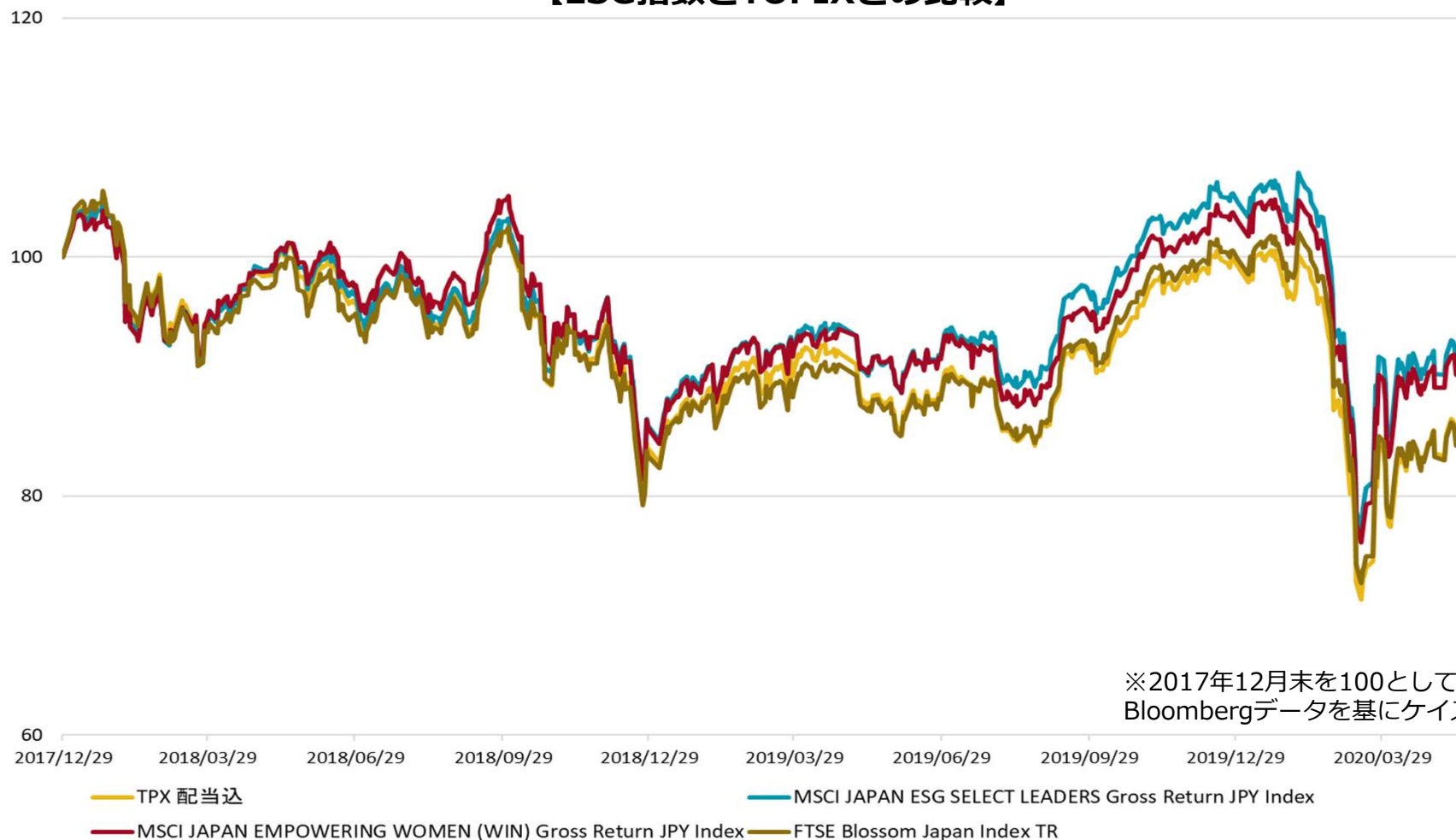
## 持続的・弾力的な社会構築に向けた過程



# 良好なパフォーマンス

- ESG投資は、近年、市場平均（TOPIX）に対して良好なパフォーマンスを見せているが、それは新型コロナウイルスによる下落からの回復においてより顕著である。
- 足元で、企業評価におけるESG要素の重要性がより増していることが窺える。

【ESG指数とTOPIXとの比較】



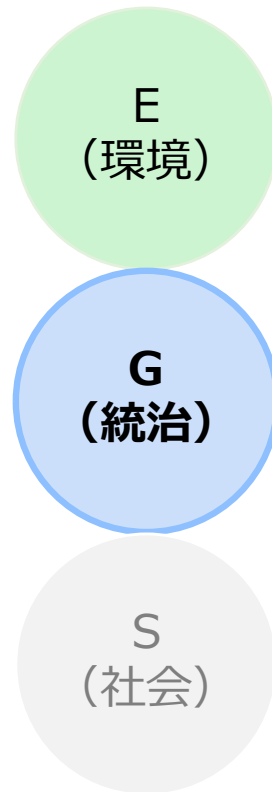
## 注目が集まる「S」

- 最初に重要性が認識された「E：環境」、世界金融危機により重要性が認識された「G：企業統治」に続き、現在「S：社会」への注目が高まっている。
- これにより、ESGという外部性が内部化される動きはさらに強まると考えられる。

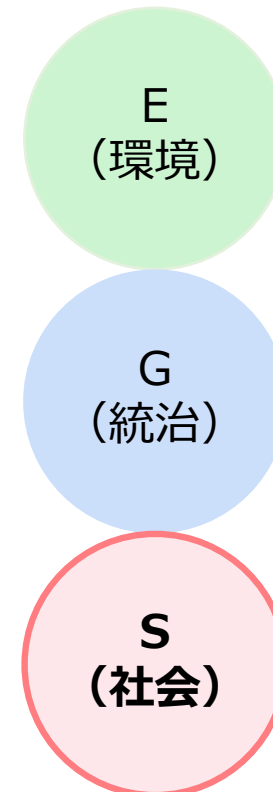
公害問題（高度成長期）  
オイルショック（1973年）  
初環境サミット（1989年）



リーマンショック  
世界金融危機  
(2007～2010年)



新型コロナ危機  
(2020年)

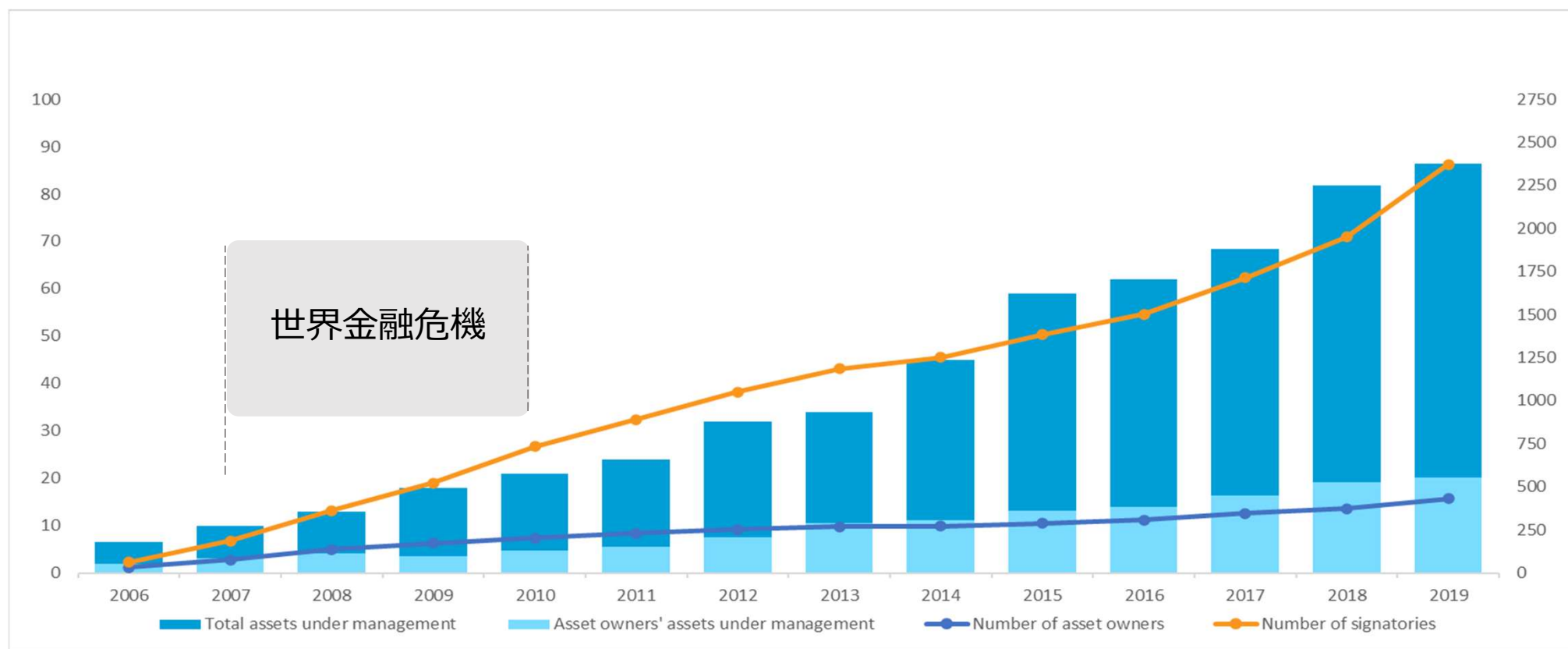


外部性の  
内部化の  
動きが強まる

## さらなる資金流入の可能性

- 世界金融危機を経て拡大してきたESG投資は、コロナ危機によりその拡大がさらに加速する可能性がある。

【PRI署名機関数と運用資産残高の推移】



出所：PRIウェブサイト

## パフォーマンスを支える潮流

- ESGやインパクトといった外部性を内部化させる動きは世界的に進んでおり、その流れが長期的にサステナブル投資のパフォーマンス向上を後押しするものと考えられる。

### 外部性を内部化する主な動き



インパクト投資／ESG投資のパフォーマンス  
(リターン／リスク) の向上